

週報

「信じます。

不信仰なわたしを、
お助けください」。

(マルコによる福音書第9章24節)



人と神、人と人をつなぐ難しい働きをしています
日本基督教団 西宮共同教会

〒662-0834

兵庫県西宮市南昭和町 10-22

TEL 0798-67-4691

FAX 0798-63-4044

郵便振替 01170-3-4901

ホームページアドレス

<http://www.koudou.jp/>

電子メールアドレス

koudou@gamma.ocn.ne.jp

小さな手大きな手

(前週よりのつづき)

小笠原村南鳥島(日本最東端の島)は、「絶海の海鳥の楽園」です。高レベル放射性廃棄物は、人間が作り出した、人間に処理不能の放射能の毒です。小笠原村南鳥島は、「絶海の海鳥の楽園」です。高レベル放射性廃棄物の最終処分場の4番目の候補地が、「絶海の海鳥の楽園」南鳥島です。ここで、忘れられているのは、「人間は生きものであり、自然の一部」であることです。人間の作り出した、そのすべてにおいて人間を脅かす「放射性物質」を人間の社会から離れた「絶海」の、しかし生きものである「海鳥の楽園」南鳥島の鳥たちに押し付ける人間の身勝手・傲慢が、何一つ顧みられていません。

福島民報は、「震災・原発事故15年」で、「チョルノービリ原発事故から40年」で、「2022年2月のウクライナ侵攻後はロシアの無人機が飛び交う」現状でのその「廃炉」についての問題を報告しています。

「…ウクライナのチョルノービリ原発は1~4号機すべてが稼働停止し、廃炉工程に入っている。だが事故があった4号機の核燃料除去には『さらに100年かかるかもしれない』(同原発職員)。2022年からウクライナ全面侵攻するロシアの無人機にさらされ、一層の長期化も懸念される」「4号機内には約185万トンの溶融核燃料(デブリ)などが残されている。遠隔で除去することになるが現時点で(事故から40年経った)事故当時の燃料が残っている」「ロシア軍は侵攻初日に原発を占拠。枯れ木の色から『赤い森』と呼ばれる汚染が深刻な地域に塹壕を掘り、多くの兵士が被ばくした…」(以上、4月26日福島民報)。

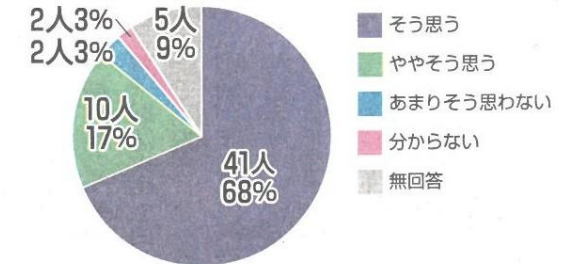
一方、その福島民報の「震災・原発事故から15年」で、「廃炉最終形の議論開始時期」についての「知事、59市町村長アンケート」の結果が報告されています。

「…東京電力福島第一原発の廃炉に関して、福島民

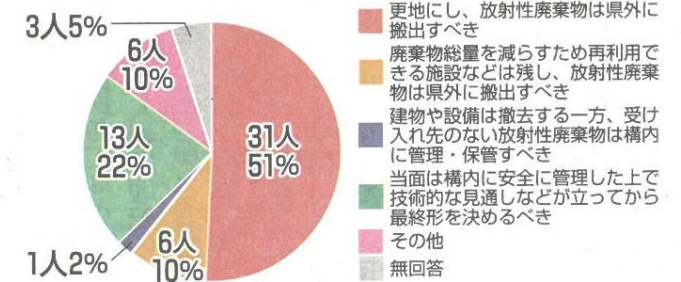
報が知事、59市町村長に対して行ったアンケートで、廃炉の最終形(エンドステージ)の議論の開始時期についての考えを聞いたところ、『第3期復興・創生期間が始まった今年度中』としたのが半数超の32人となった。国・東電にさらなる構内の情報取得や分析が必要と主張するが、震災から15年が過ぎ、多くの首長が一刻も早い検討着手が必要と感じている現状が明らかになった(5月8日、福島民報)。

で、言われている「廃炉の最終形」についての言及もありますが、その「議論」について、前掲のアンケートでは、以下のような問いと、そのまとめも報告されています。

問1 福島第1原発の廃炉を確実にするため、法的担保は必要と思うか。*昭和村は前村長に聞き取り



問2 福島第1原発の廃炉の最終形についてあるべき姿をどう考えるか。*昭和村は前村長に聞き取り



5月8日、福島民報

(次週につづく)